

釧新郷土芸術賞に輝く

受賞者の横顔

□下□



花柳 寿芳貴さん(37)

(釧路市)

日本舞踊

日本舞踊の伝統を
継承する2代目花
柳寿芳貴さん

持続が大事

花柳流名取。幼少から祖母の寿登芳師匠(1984年度釧新郷土芸術賞受賞者)、母の初代寿芳貴氏(故人)に日本舞踊の手ほどきを受ける。95年に初代寿芳貴氏第17回

2005年くしろ日本舞踊協会創立30周年記念公演では、泣き上戸や酔って怒る船頭の姿を表現する「巽船頭」を好演した。この演目はかつて寿登芳師匠が歌舞伎座で舞った思い出の作品だった。舞踊活動のほかにも民謡や太鼓など

昨年9月の「杜の賑わい」でも見事な舞いを披露。今年6月の寿芳会55周年記念の古典舞踊の会では正札附の「舞鶴」や「春興鏡獅子」を披露して存在感を示した。さらに9月には札幌の舞台に立つなど精力的で「やはり多くの方に見て

成長していききたい

いただき、感想を聞きながらまた成長していききたい」と、今後にさらなる意欲を見せている。

忌追善公演で2代目寿芳貴を襲名した。「何か新しいものを創る」ということよりも持続していくことが大事。師匠がしっかりとけいこ

6団体の地元芸術関係者と共同で「緋翔会」を結成してジャンルにとらわれない活動も展開している。

そして「くしろ港まつりや北海盆踊りなど、地元のイベントにも積極的に参加して皆さんに喜んでいただければ、それがわたしにとっても一番うれしい」といっしり。

地域貢献大切に

を重ねて、次の世代につなげてきたように、わたしも一年ごとに経験を重ねていきたい」と、母親譲りのきりりとした表情を見せる。

07年には花柳流の教授資格にあたる「専門部」試験に合格した。

地元の人と共に楽しみ、地域貢献を大切にする寿登芳師匠の歩む道をしつかりと継承している。